

教育目標(めざす児童生徒像)	今年度の指導の重点
教育目標 「心豊かで主体的に学びたくましく生きる生徒の育成」 目指す生徒像 <ul style="list-style-type: none"> ・明るくあいさつができる生徒 ・けじめをつけ自立できる生徒 ・自他共に人権を大切に思いやりのある生徒 ・自分の課題を知りその解決へ向けて努力できる生徒 ・感謝の気持ちをもち社会に奉仕できる生徒 	教師と生徒の人間的なふれあいを深め、信頼感に基づいた実践により、基礎学力の充実を図ると共に、個性を生かし、人間性豊かな生徒を育成する。 1 学習指導の充実 4 人権教育の充実 7 特別支援教育の充実 2 生徒指導の充実 5 道徳教育の充実 3 キャリア教育の充実 6 生徒会活動の充実



調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 国語A、国語B、数学A、数学B全てについて全国・県平均に比べると正解率が高く、国語B、数学Bはかなり高い。国語Aについては目的に応じて必要な情報を読み取る能力が低く課題がある。漢字の読み書きの定着は良い。国語Bについては文章の構成や表現の特徴を捉えることが苦手であるが、自分の考えを書き能力は高い。数学Aについては数学的な技能は定着しているが、資料の整理の正解率が低く課題がある。数学Bについては関数や資料の活用の正解率が低く、数学的な見方・考え方を高める必要がある。全体的に無回答率が低く、解こうとする意欲が高い。 県 社会は県平均を上回ったが、数学、理科は県平均を大きく下回り基礎学力を高める必要がある。国語は文章を読み取り構成を考える力が高いが、漢字の書き取りや目的に応じて記述する能力を高める必要がある。社会は歴史についての知識・理解はあるが、地理的な分野の知識・理解を高める必要がある。数学は四則演算の計算力はあるが、図形・小数分数・百分率に課題がある。理科は生命・地球、電気の利用は力がついているが、物質・エネルギーの化学・物理に関する問題の定着が低い。自分の考えをまとめ記述したり、目的に応じた表現をする力をさらに養う。さらに基礎学力充実させ、応用力を高める必要がある。	【学習状況調査の結果】 家庭学習は、1時間～2時間の生徒が多く、全くしない生徒は0に近く県平均を下回っている。学校の宿題や課題については、ほとんどの生徒が家で行い提出をしている。テレビやDVDについては県平均と同様に2時間～3時間の生徒が多い。テレビゲームは1時間より少ないが、県平均を下回っている。読書が好きな生徒は多いが、読書時間や図書館利用については低い傾向にある。基本的な生活習慣(朝食、睡眠、あいさつ等)はよい。規範意識が高く、決まりを守ろうとする生徒が多い。人の気持ちがわかる、人に役立ちたい生徒が多い。授業中、生徒間で話し合いや意見を出し合う活動が出来ていると思う生徒が多い。学校が楽しい、友達と会うのが楽しいと感じている生徒が多い。予習や復習、テストなどの振り返りをしている生徒が少ない。A層では振り返りや学習のまとめをする生徒が多い。自己肯定感や成功体験や達成感を得ていない生徒がやや多い。



成果と課題	課題に対応した改善方法
国語、数学共のB問題が全国平均より高く、応用・思考力が高まってきている。素直で真面目な生徒が多く、基本的な生活習慣(あいさつ、朝食、睡眠)は確立してきている。規範意識が高い。人間関係や学校について良い印象を持っている生徒が多い。数学では少人数指導の成果が出ている。(数学)生徒の落ち着いた学校生活や授業が確立できている。朝読書などで読む力はついてきているが、書く力が弱い。自分の思考を表現したり説明したりする力を高める必要がある。数学・理科の基礎・基本の充実を高める。成功体験での達成感や自己肯定感をさらに持たせる「向上心」を高める必要がある。家庭学習の時間が少ない。家庭学習をさせる工夫が必要である。	グループや班を利用した学習を取り入れ、ホワイトボードやICTを利用や、話し合い活動で表現力を高める。基礎基本の充実を更に図る。(小テストやプリント学習を授業の中で行う。)授業での「本時の目標」の提示、学習の振り返り活動を必ず取り入れる。放課後の補充学習を計画的に行っていく。(3年生)小中連携をして学校間で取り組んだり、家庭との協力関係を築いていく。到達度テストの活用をしていく。学校での活動や地域での活動を通して、達成感や自己肯定感を高めていく。

取組の検証方法及び検証時期	達成目標(数値目標)
基礎基本の充実・・・チャレンジテストでの反復練習での基礎基本の充実(1学期国語、2学期英語、3学期数学) 授業振り返りシートの活用(単元ごと) 校内研修を利用して、研究授業での授業見直しや、評価のあり方について研修を見直ししていく。(各学期) 学力定着状況確かめテスト(2年生、2学期) 到達度テストの活用(学期又は単元ごと)	全国学力学習状況調査では現状を維持する。 家庭学習の時間が1時間～2時間の生徒の割合を50%以上に増やす。 国・数・英チャレンジテスト80%以上の達成率を目指す。